

## 歓迎の辞

農林水産技術会議事務局長  
畑 中 孝 晴

中国並びに我が国の稲作研究者多数の御参会を得て、本日ここに熱帯農業研究センター主催の「遺伝資源利用による水稻育種に関するシンポジウム」が開催されるはこびとなりましたことは、国際研究協力の積極的推進に努めております私共農林水産技術会議事務局としても誠によるこびとすところであります。開会に際し農林水産技術会議事務局を代表し一言御挨拶を申し述べさせていただきます。

まず最初に本シンポジウム出席のため中国から来日されました雲南省農業科学院長呉自強先生をはじめ中国側出席者の皆様に対し心から歓迎の意を表するものであります。また、国内からもおおくの関係者の御出席を得て本シンポジウムがこのように盛大に行われますことは、誠に御同慶のいたりと存ずる次第であります。

御案内のとおり今回のシンポジウムは我が国の熱帯農業研究センターと中国の雲南省農業科学院が共同して実施して参りました水稻の育種に関する日中共同研究の成果を中心に討論されることになっております。この日中共同研究は、当時の亀岡農林水産大臣と先ほど御祝辞を賜りました何康中国農牧漁業部長の前任者の林農業部長とのあいだの協議を契機として1982年に開始されました。それ以来、この共同研究は、一衣帯水の日中両国間における農業研究協力のシンボルの事業として日中双方の多くの方々のお支援と御努力により今日まで着実に研究の進展を遂げて参りました。

この共同研究からこれまで多くの研究成果を生みだしておられることに対し、この機会に日中両国の関係者に深く敬意を表するものであります。

これから3日間シンポジウムが行われるわけですが、ここで論じられる耐冷性、耐病性及び多収性は、水稻優良品種が持つべき基本的形質であります。従いましてこのシンポジウムの成果は、日中両国における水稻の生産力の向上及び安定に直ちに生かされるものであると信じます。

また同時に日中両国による努力の結晶は、他の米を主要食糧とする国々における稲作の発展のためにも、大きな貢献をもたらすものであることを信じて疑いません。

終わりに、本シンポジウムの成功と、中国から御参加いただいた皆様の日本滞在が稔り多いものとなりますよう希望いたしますして私の挨拶といたします。

ありがとうございました。